

株式会社 日本触媒

2007年3月期 決算説明会



2007年5月9日



日本触媒

中長期経営計画

「テクノアメニティV3」

(2006～2010年度)

の進捗について

代表取締役社長
近藤忠夫

目次

1. 中長期経営計画
2. 機能性化学品セグメント
 1. 電子情報材料
 2. S A P
 3. その他機能性
3. 基礎化学品セグメント
 1. アクリル酸/エステル
 2. E Oおよび誘導品
4. 環境・触媒セグメント
5. 買収防衛策
6. 利益還元策
7. 今期見通し

用語解説

SAP :	高吸水性樹脂
AA :	アクリル酸
EO :	酸化エチレン
EG :	エチレングリコール
ROA :	総資産経常利益率
NAII :	NA Industries, Inc. (米国) [SAP等製造販売子会社]
NSC :	日触化工(張家港)有限公司(中国) [SAP製造販売子会社]
ICT Co. :	株式会社アイシーティー [自動車触媒合併会社]
ICT Inc. :	International Catalyst Technology, Inc. (米国) [自動車触媒合併会社]

テクノアメニティ V 3

こだわり、変革、飛躍

中長期計画：2006～2010年度

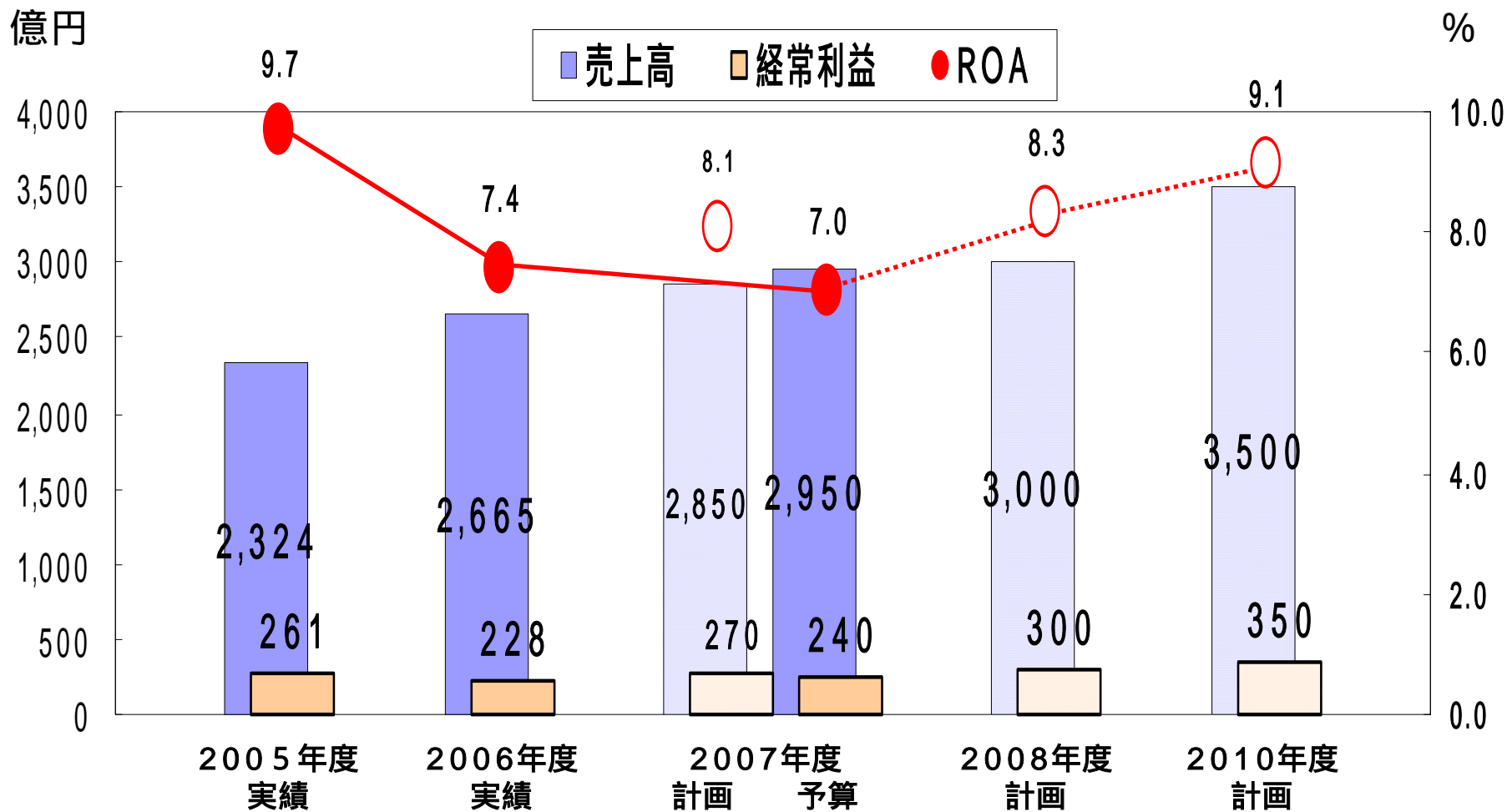
■ 新規事業の方向性

電子情報材料事業に特化、経営資源を集中

■ 既存事業の方向性

成長領域（分野、海外）へ進出

連結業績目標

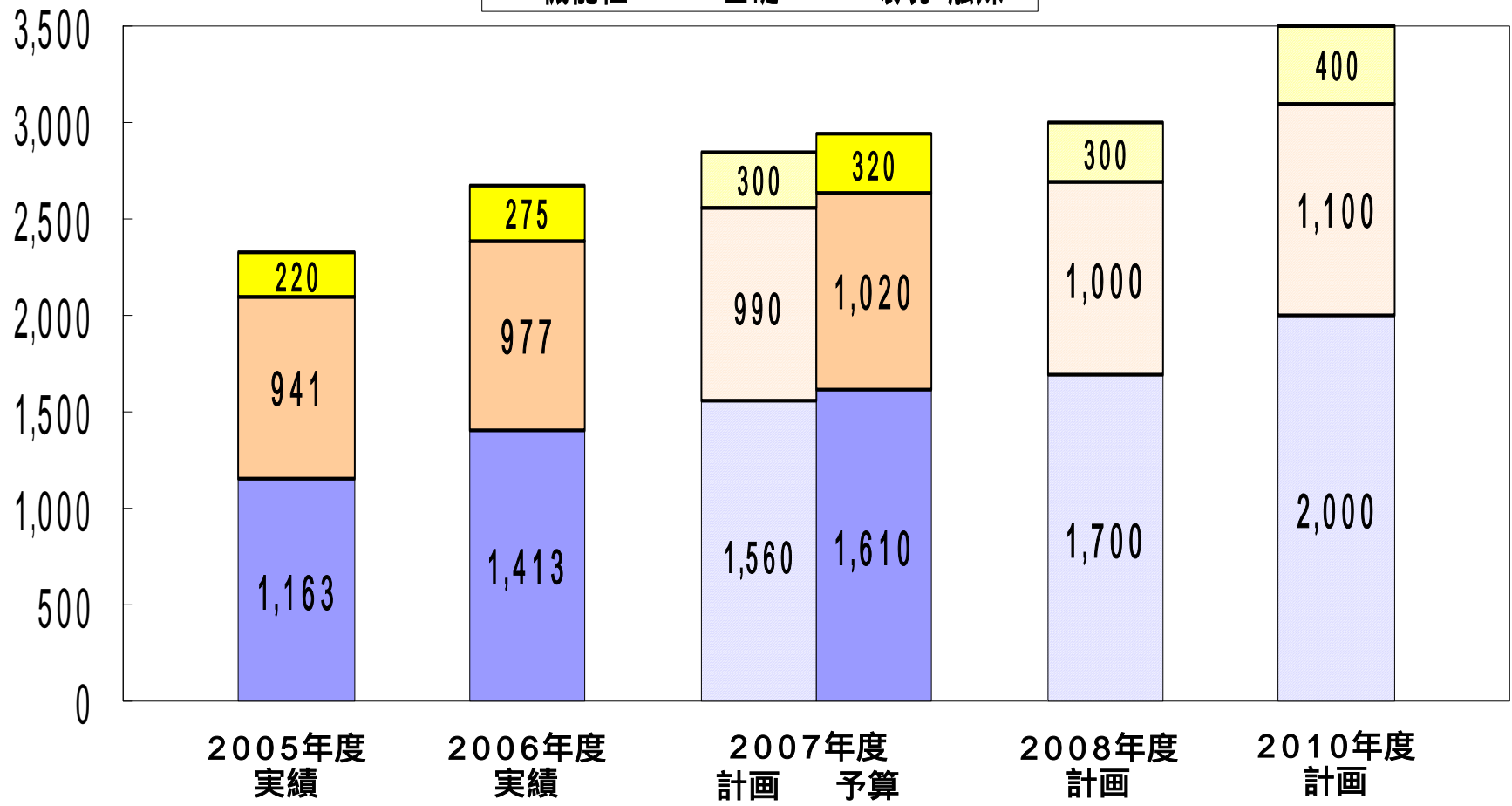


ROA : 総資産経常利益率

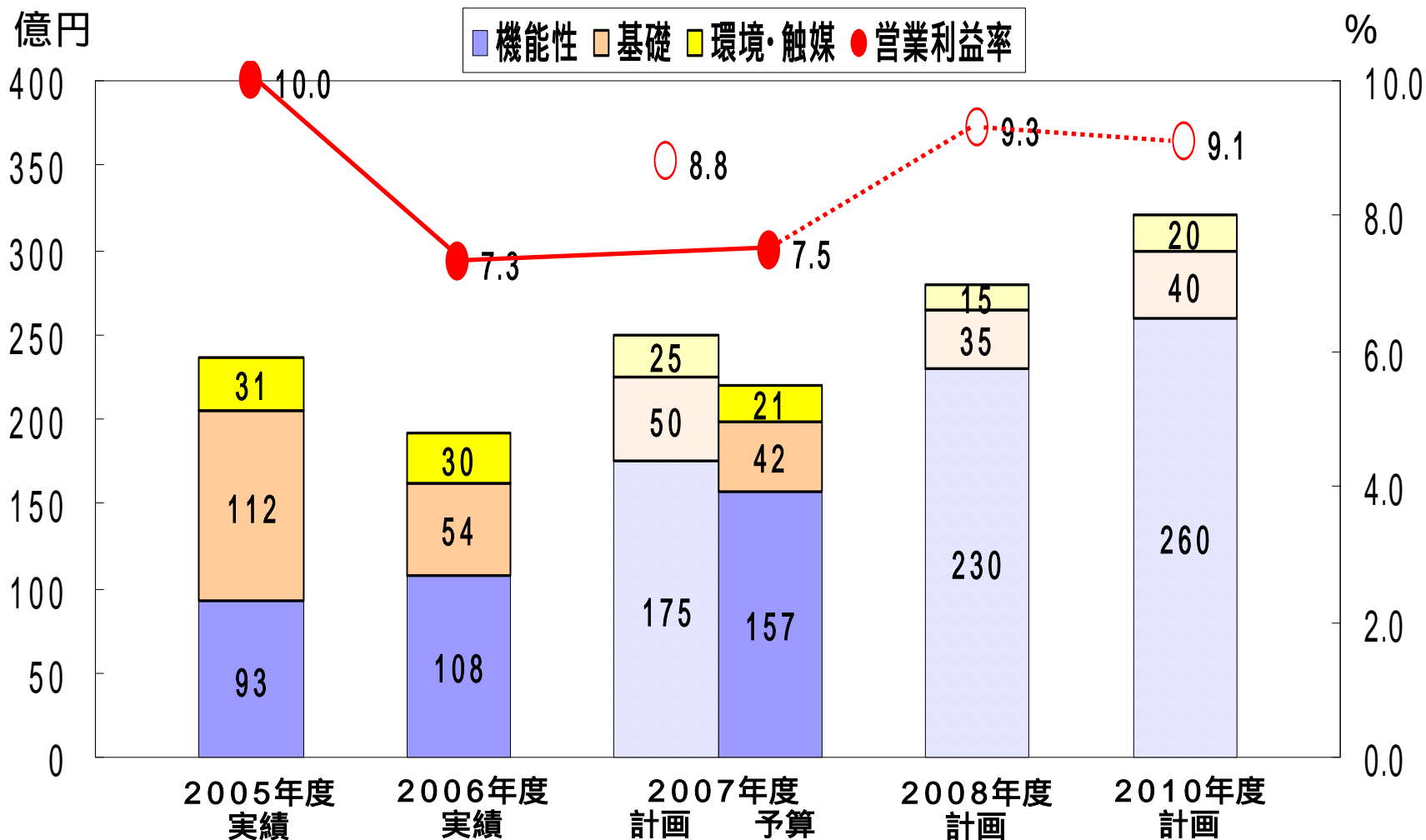
セグメント別売上高目標

億円

■ 機能性 ■ 基礎 ■ 環境・触媒

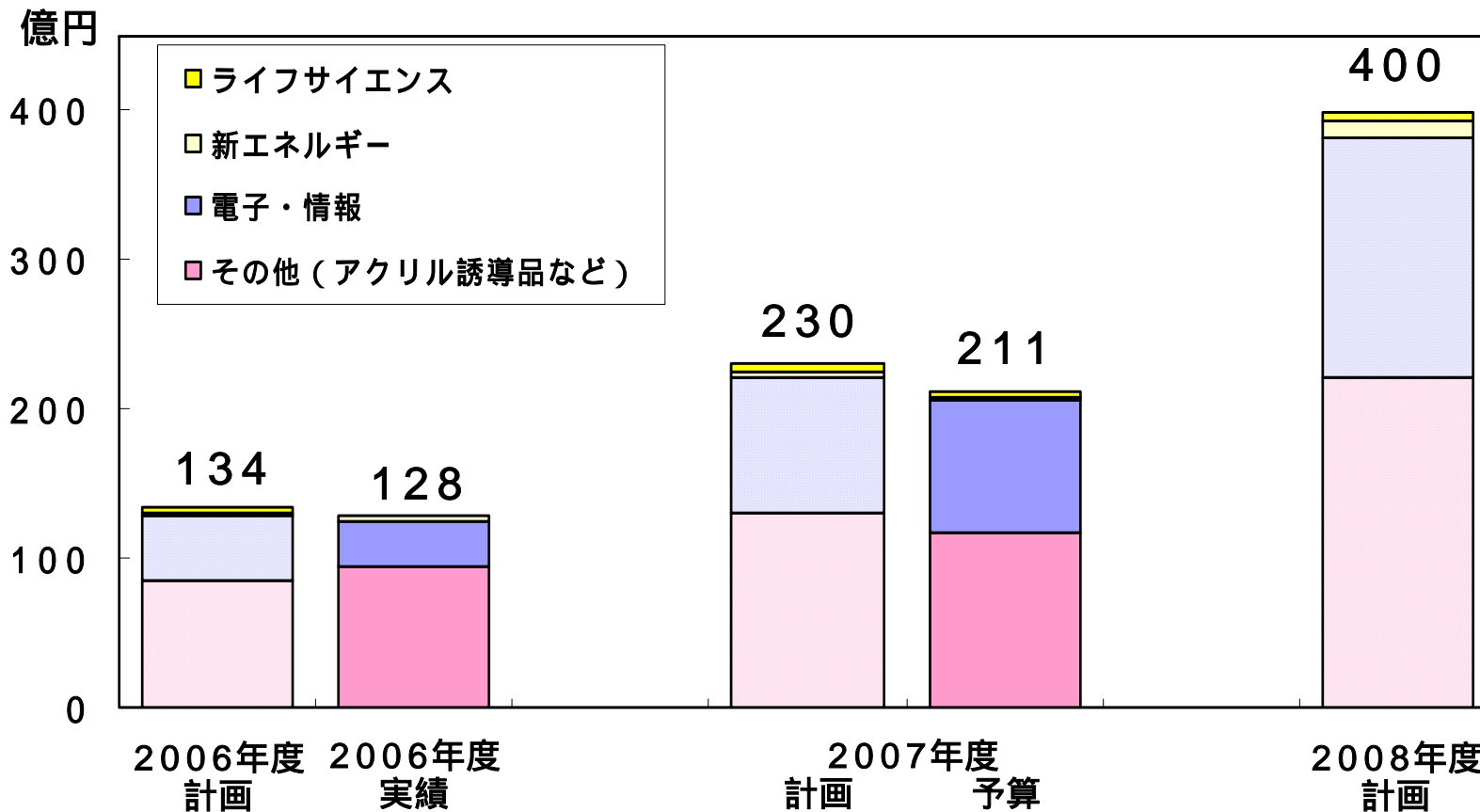


セグメント別営業利益目標



新規製品売上高目標

04年以降上市製品売上高



電子情報材料

テクノアメニティV3

2005年売上高：
50億円



2010年売上高：

300億円

分野	2006年 実績	2007年 予算	2008年 計画	2010年 計画
表示材料	58	113	170	220
電池材料	0	1	10	24
半導体材料	9	10	15	46
情報伝達材料	0	1	5	10
合計	67	125	200	300

電子情報材料

分類	主要品目
表示材料	アクリビュアー [®] （光学材料用アクリル樹脂）、 球状微粒子、機能性色素、レジスト 用ポリマー、光硬化性材料
電池材料	イオン性液体
半導体材料	レジスト用ポリマー、 半導体用絶縁膜材料
情報伝達材料	フッ素系ポリマー、 光学材料用耐熱性樹脂

アクリビューアー[®] (光学材料用アクリル樹脂)

2010年売上高目標 100億円

■ 樹脂設備

今秋6,000トン能力に

第1期3,000トン設備：順調に稼動中

■ 販売状況

小型FPD用

順調に販売中

大型FPD用

今秋モデルへの採用に向け開発中

■ フィルム化開発状況

・材料開発

さらに複数の高機能グレードを開発中

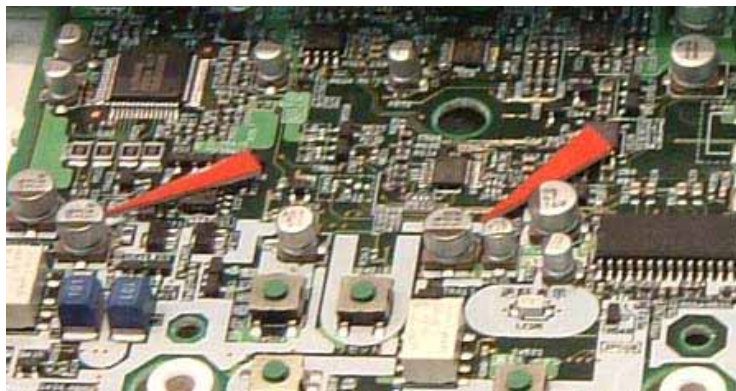
・試験設備

一部稼動中、今秋完工予定

イオン性液体

2010年売上高目標 20億円

- 電解コンデンサー用途向け
- 今秋立上げ予定

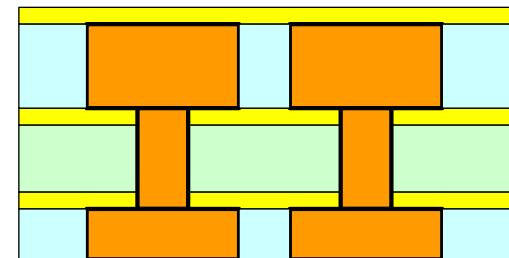
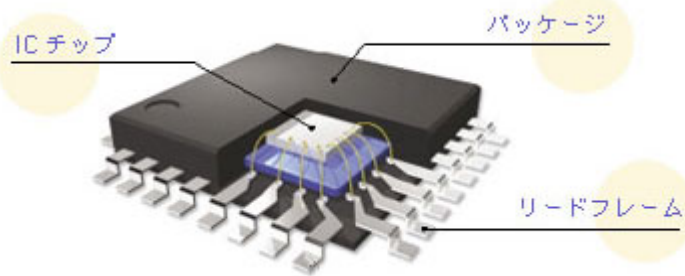
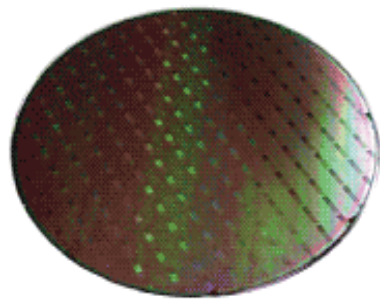


半導体用絶縁膜材料

2010年売上高目標 20億円

次世代半導体に適用できる
低誘電率化と強度を実現

半導体デバイスの絶縁膜へ展開



既存製品

■ 球状微粒子

- 当社技術特長 粒径分布、屈折率、素材展開
- 展開強化分野 光拡散剤、フィラー、
液晶スペーサー

2010年売上高目標 80億円

■ 機能性色素

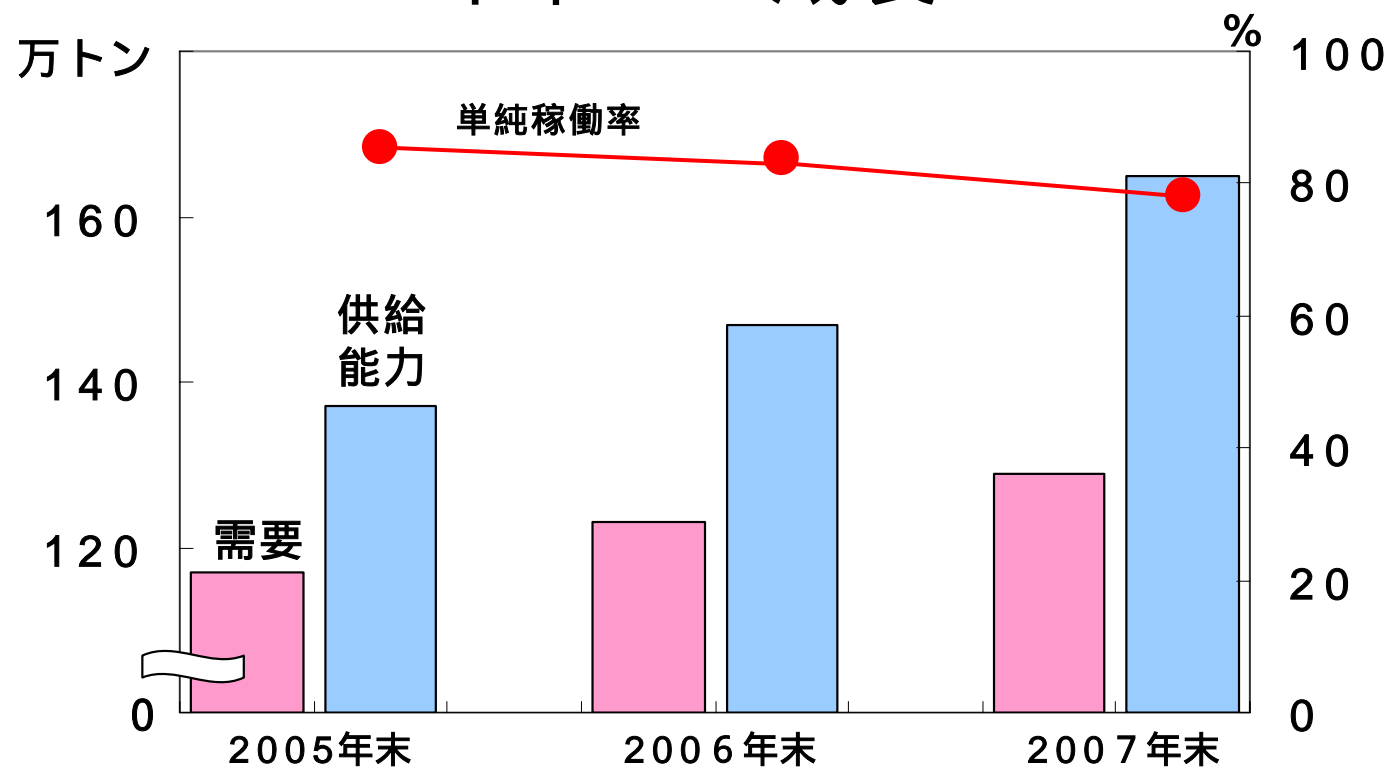
- 素材 フタロシアニン系
- 展開強化分野 FPD向け近赤外線カット材

2010年売上高目標 30億円

SAP

■ 世界需要

約120万トン (2006年末)
年率5%成長



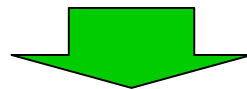
SAP需給バランス (世界、当社調べ)

SAP

SAP = 高機能製品

■ 当社の強み

- ニーズ対応力 研究開発 / 特許戦略
- 安定供給力 日・米・欧・中で41万トン(世界一)
- コスト競争力 技術・規模で優位なアクリル酸
独自の優れたSAP製造技術



メガ・コンペティションを勝ち抜く

SAP

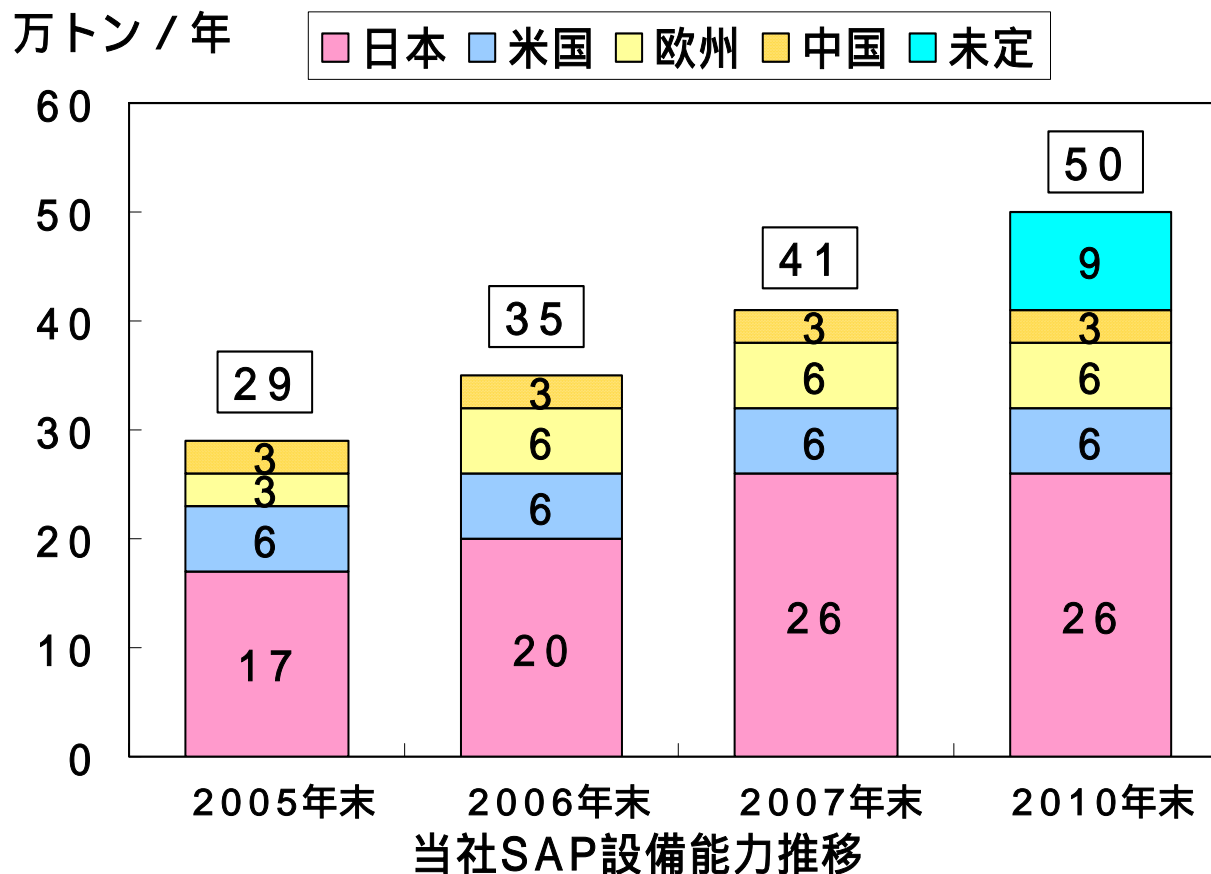
■ 当社能力

2006年4月

姫路3万吨増設

2007年6月

姫路6万吨増設



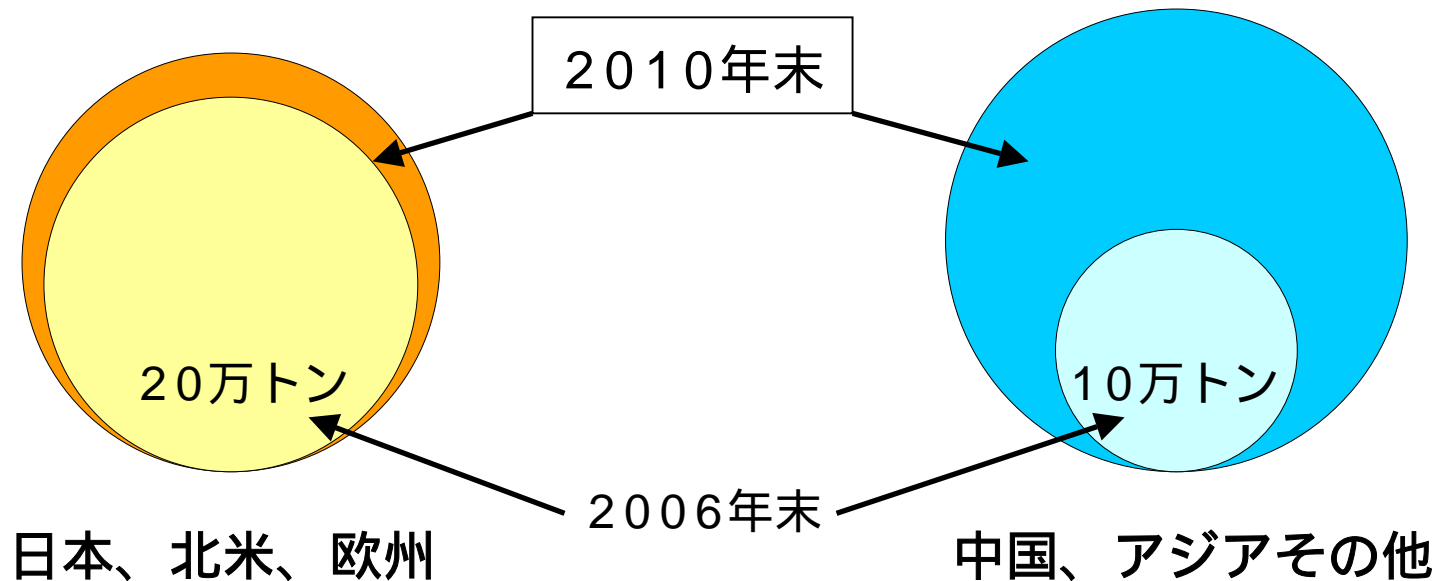
コンクリート混和剤用ポリマー

■世界需要

約30万トン

(2006年末、ポリカルボン酸系)

年率**10%以上**成長



市場成長イメージ(当社調べ)

コンクリート混和剤用ポリマー

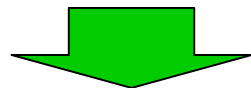
- **当社能力** **6万トン**（2006年末）
- **当社の強み**
 - 原料からの一貫生産による **コスト競争力**
 - 多様なニーズに対応可能な **製品開発体制**
 - 優れた **コスト&パフォーマンス** を実現



コンクリート混和剤用ポリマー

当社アクション

- 研究開発体制の拡充
- 需要地立地供給体制の拡充
 - 国内（川崎） 1万トン増強（2007年末）
 - 米国（NAII） 増強検討中
 - 中国（NSC） 新設1万トン今秋完工



10万トン体制へ

アクリル系誘導品

■塗料・粘接着用樹脂

■技術方向性

高耐久年化、環境対応

■注力用途

家電リサイクル

シックハウス対策品

■特殊エステル

■注力用途

自動車塗料用途ほか

■需要地域

インド・タイ等

大幅な需要伸長

アクリル系誘導品

■洗剤用ビルダー

■技術方向性 多様な洗剤ニーズに向けた
製品群の充実

■グローバル供給体制

■制振材用エマルション

■技術方向性 高制振性発現

■地域 米国に続き国内も
本格販売へ

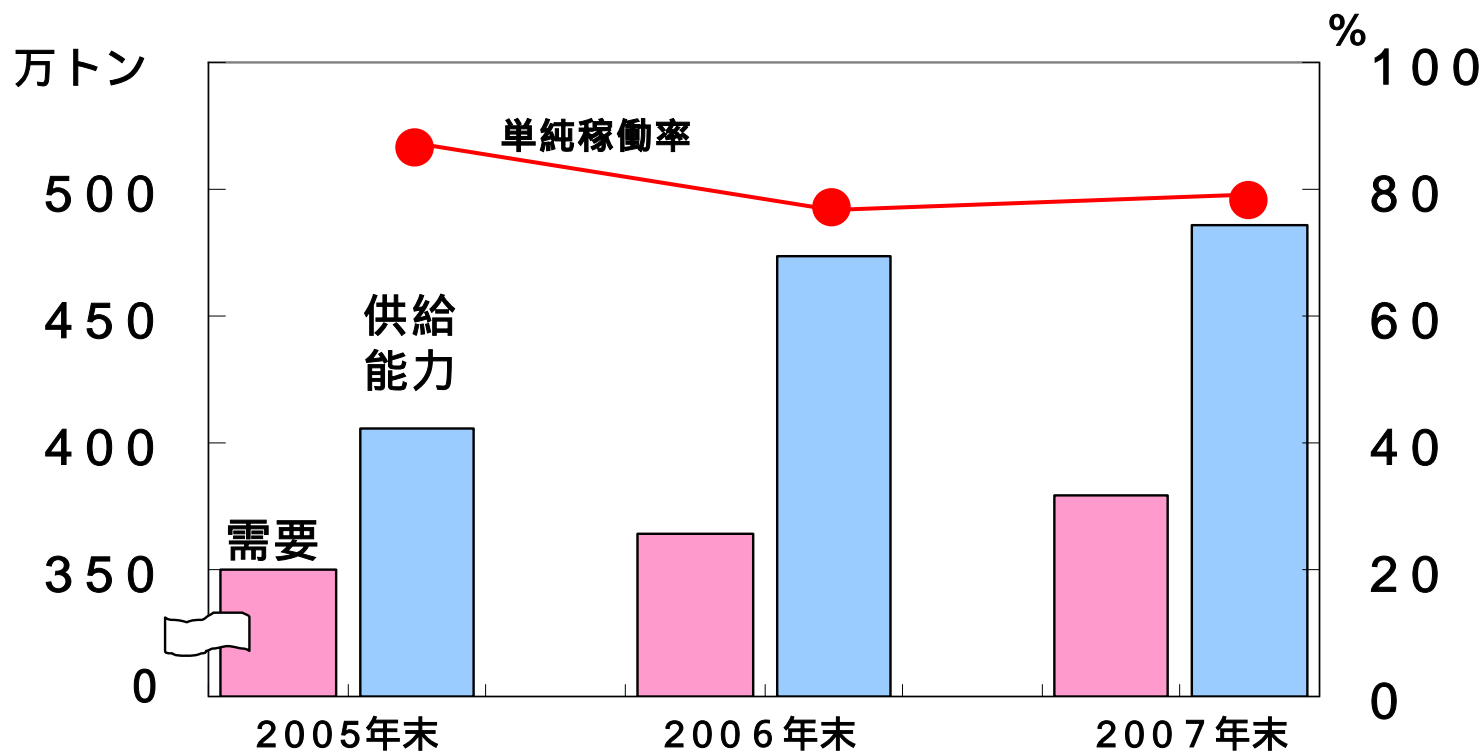
アクリル酸/エステル

■ 世界需要

年率 4 % 成長

■ 供給能力

中国での増設 2006年40万トン



アクリル酸需給バランス (世界、当社調べ)

アクリル酸/エステル

■ **当社能力** **62万トン** (アクリル酸)

■ **市況**

原料価格 依然高止まり
(プロピレン、アルコール)

製品価格 競争激化により厳しい状況

製品価格と原料価格の
スプレッドは縮小傾向

アクリル酸/エステル

当社アクション

■ 当社の強み

- 世界トップの製造技術
- 大量の自家消費によるAA高稼働率維持
- 高品質品の外販

■ 設備稼動

- グループ全体で生産最適化

■ 原料調達

- 世界レベルでの安価原料の確保

E O および誘導品

川崎の E O センター化

■ 戦略商品としての E O 拡大

■ 設備増強

2009年夏 浮島工場設備 **7万トン増強**

■ 具体策

E O 外販の拡大

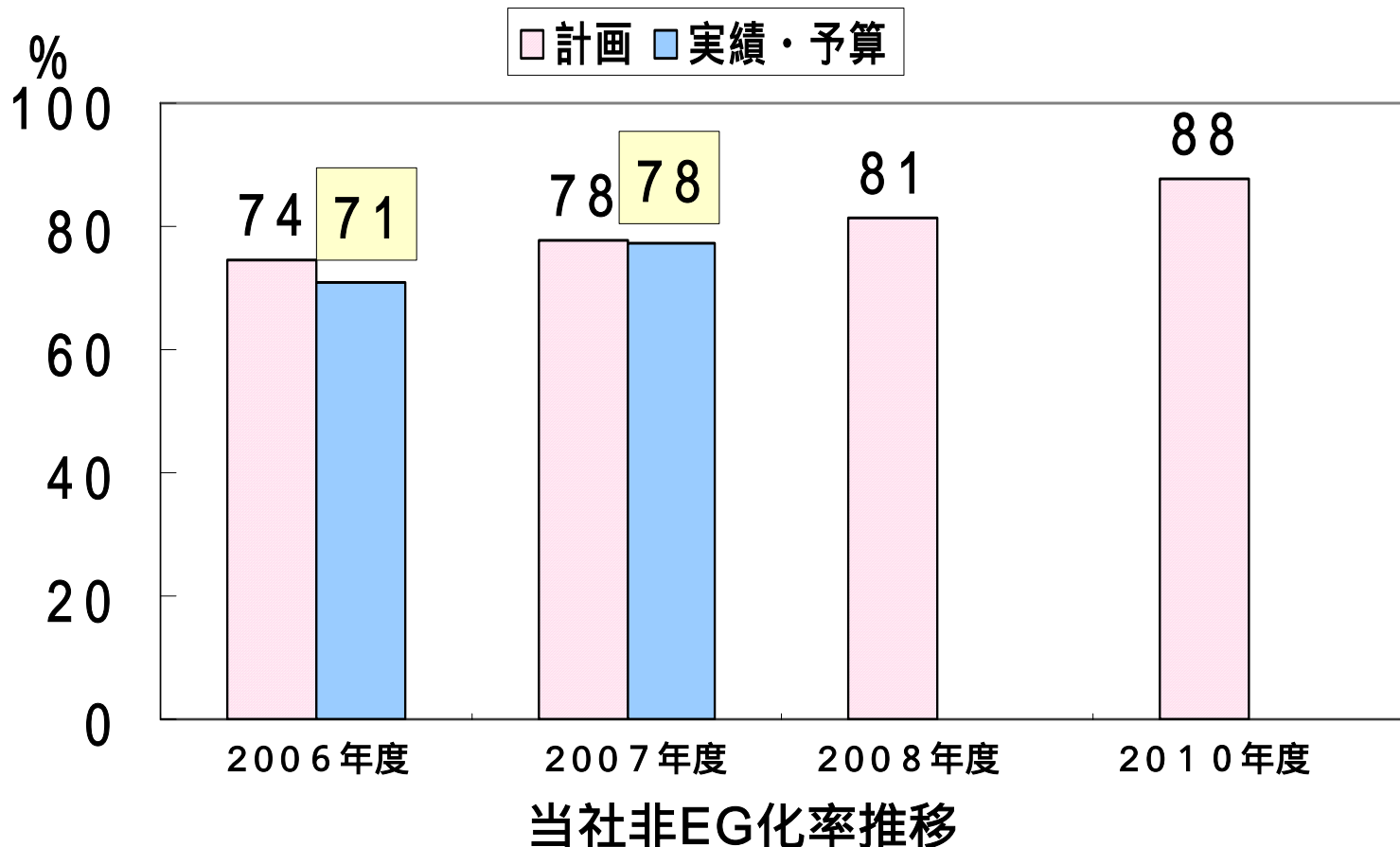
E O 誘導品生産受託の拡充

E O 誘導品の拡大

川崎地区土地取得

非 E G 化推進

「脱 E G」による収益の安定化



環境・触媒

■自動車触媒

■成長事業

事業基盤拡大 新興市場（BRICs）への展開
生産最適化

日ICT 最新設備完工（姫路）

米ICT ユミコア（合併パートナー）カナダへ生産集約

■プロセス触媒

■セグメント収益の柱

高性能化、技術サポート → シェア-アップ
コスト削減 → 収益力強化

買収防衛策の導入

特徴 **平時導入の事前警告型**
有事の際の株主総会判断型

目的 当社の企業価値を安定的かつ継続的に維持・向上させることにより株主共同の利益を図ること

手段 特定の大規模買付者を除く株主のみが行使可能な新株予約権の無償割当

買収防衛策の導入

株主、対象会社、買収者にとって**フェア**な防衛策

- **導入時**および**対抗措置の発動時**の
両方の時点において、**株主の意思を反映**
- 経産省・法務省発表の**三原則**に則す
 - 企業価値・株主共同の利益の確保・向上の原則
 - 事前開示・株主意思の原則
 - 必要性・相当性確保の原則

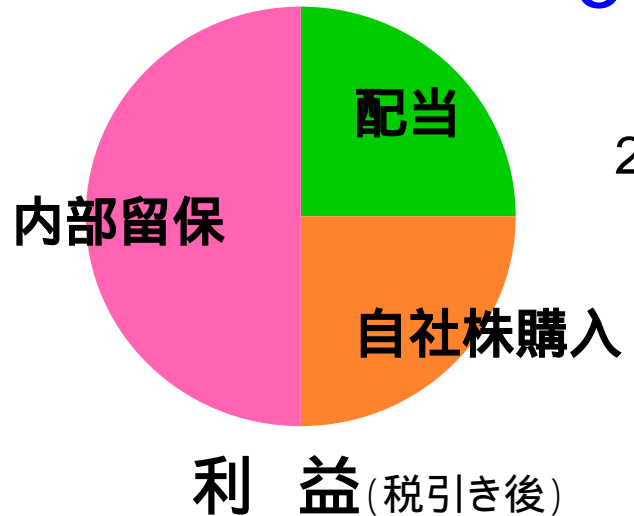
利益還元策

企業価値の維持向上

総還元率

$$= \frac{\text{配当額} + \text{自社株購入額}}{\text{当期純利益額}}$$

50%前後を維持



2006年度	配当	30億円(16円/株)
	自社株購入	47億円
	総還元額	77億円
	(総還元率)	55%

2007年度見通し

	‘06年度実績	‘07年度予算
売上高（億円）	2,665	2,950
経常利益（億円）	228	240
ROA（%）	7.4	7.0

- **電子情報材料**の着実な進捗
- **アクリル系誘導品**の強力な展開
- **スプレッド**の維持・是正
- **コストダウン**の徹底